

創刊に寄せて

学長 神本武征

ものづくり大学は2001年の開学以来9年が経過しました。この間、最初の4年間は新しいカリキュラムを立ち上げることを最優先し、その後ようやく教育が定常状態に入るとともに、研究・社会活動を開始してきました。

本学の目的は教育にあることは言うまでもありませんが、生きた講義をするには研究の成果を講義内容に反映させることが重要であります。研究で得られた実際の経験と新知見を講義することは学生に興味を持たせるばかりでなく、話の内容に深みを与えます。

とは言うものの、本学の研究の多くはアカデミックな内容とは距離のある「ものづくり」に軸を置いた実学的なものであります。したがって研究の成果はなかなか一般の学術ジャーナルに向かないくらいがあります。「ものづくり」を基盤とする研究テーマを独自の基準で評価して掲載し、一般社会に公開しようと言うのが本誌の第一の目的であります。

本学は教育と研究以外にも幅広い活動をしています。ひとつは「研究情報センター」を中継して実施している産学共同です。年間30件程度ですが、地元の企業を中心に新技術の研究と開発、既存技術の改良などに取り組んでいます。その他、このセンターを通して国、県などから委託される職業訓練などの社会人を対象とした事業を実施しています。

さらに建設学科では地方自治体の要請に応じて歴史的建物の調査と再建、地域コミュニティセンターの設計と施工、さらには公園や図書館などへの木工作品の寄付も行っています。

一方、最近の若者の理科離れの傾向は技術立国を標榜するわが国の前途を危惧させるものであります。このような観点から本学は小中学生を対象とした理科・工作教育を継続的に行っています。

本誌の第二の狙いはこのような本学の一般的な社会貢献の活動を記録・公開することにあります。本学をサポートして下さる国、自治体、関連企業、関連機関におかれましては本誌を通して活動の様子をご理解いただければ幸いです。

本誌の一層の充実に努めて参りますので、忌憚無いご助言とご感想をいただければ幸いです。

2010年6月吉日

学長 神本武征